



薫小だより

「気づき・考え・行動する 薫の子」



郡山市立薫小学校

学校便り No. 5

令和5年 5月 9日

文責：校長 齋藤和彦

◆ 連休中の石川能登地方地震災害に遭われた皆様とその関係保護者の方々の一日も早い日常の回復をお祈りいたします。

1学期～第2ステージへ！



子ども達も、私たち職員も、まずは連休まで！の短期目標を目指して進んできました。

ここからは、1学期の第2ステージです。新学期の緊張感や新しい環境への様子見の時期から、徐々に個々のらしさ（個性）が表れるようになってきます。～それぞれの個性を存分に発揮して、伸び伸びと活躍することを願いながら、慣れや油断による不注意事故（登下校中の事故・校内事故やけが・心の事故）を回避できるよう気や心を配っていきます。ご家庭でも、「慣れてきたから..自分で..」と言いたい頃と思います

が、
低学年は、手をかけて..
中学年は、目をかけて..
高学年は、心をかけて..
学校・家庭連携して、子どもの育つ力を

共に後押ししていきましょう。



◆◆ 校長室より ◆◆

なかなか直らない..子どもの「行儀の悪さ」には、「見えない原因」がある。～子どもの「困った行動」を叱っても意味がない～なぜなら、「見えないところ」にその行動の原因があるかもしれないからです。私たち誰にも発達にそれぞれの凸凹（特性）があります。上記の子どもの場合、この凸凹特性に大きな部分がある場合があります。

専門的な検査によって、この凸凹実態を明確にして、その対応策を学校と保護者と専門家（医師や臨床心理士等）で探っていくことが必要です。（対応策の正解はありません。目指すところは、ただただ「困っている子どものために」）

～ある..若い臨床発達心理士をめざす学生さんが、こんなことを言いました。相談者十数人を抱える、かけだしの囑託見習いさんでしたが、共感できる..お話でした。

「(～略...) 視覚化された予定表は、本来なら写真や絵でわかるといいけど、少なくとも、色分けされていて、「なんだか今日の予定が楽しいものに見える！」(その子に対する先生の心) ってだけでもいいね。動くたびに何か言われ、ひたすら浴びせかけられる言語指示は、全然わからない中国語で激しくまくし上げられるのと同じ、あるいはそれ以上のストレスと苦痛だよ。そうやって、大人の都合で追い込まれて...みんなチックや行動障がいになって..あぁあ..ってなる。(この状態で相談に来る親さんがいっぱいだよ。)」
「(～略...) 個々の障がいに対応するって、とても大変なことだけど、ときに一緒に困るって大事だと思う。悩んで困ってみたいとわからない。ひざすりむいたときの痛みがわからないと、そこに絆創膏貼ってあげるとき、触れ方わからないでしょう？ そーっと痛くないように貼ってあげることできない..って思うんだ。」

私たちの研修努力は必要です..が、専門的・的確な実践をすぐに..は、なかなか難しいのです。でも、できることがある。一緒に困ってみる(悩みがわかる)寄り添うってことです。

～いつまでも、一緒に困っていたり、寄り添っているだけでは、素人なのですが...誰よりも困っているのは、「子ども」本人です。ここを忘れず、できる限りの力を尽くします。

※裏面：「ひなちゃん 一人で行けたね」参照



新型コロナ～「5類分類」に移行

- 「出席停止」措置について
 - ・発症翌日から5日間〔出席停止〕
 - ・家族感染による出席停止はしない（原則：インフルエンザ対応と同じ）
- 「健康チェック」について
 - ・毎朝の検温提出はしなくてよい
- 「マスク着用」について
 - ・個々の判断（保護者判断）による
 - ・運動時や暑い日は外すことを推奨
- 「手洗い・手指消毒」について
 - ・これまでの衛生習慣定着を継続する
- 「給食の黙食」について
 - ・黙食は求めませんが、机を前向きにして、静かに食べるようにする
- 5類移行となっても、感染の心配リスクが軽減されたわけではありません。
発熱や咳（体調変動）のある場合は、無理をせずに積極的に休養をとることを優先してください。



個々の障がいに対応するって..とても大変なことだけど。